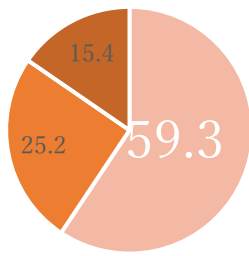


fraME

～壁のない社会の実現を目指して～



LGBTに対する社会の理解は、 誤ったものが多いと感じる



「職場や学校など環境に関する意識行動実態」2016年5月実施

LGBT 総合研究所 をもとに作成

現在、様々なメディアでLGBTQ+が取り上げられている。しかし、ブームのような扱いを受けていたり、社会の認識と当事者達の考えの間にギャップがあったりと、社会に十分受け入れられているとは言い難い。

なぜ？

ジェンダーについて知る機会がない
多少の知識はあっても深く理解していない

—ジェンダー教育の現状—

- ・保健の授業で生物学的な構造など表面的な知識を教わるだけで深く学ぶことがない
- ・教えてもらえるのは言葉だけでストーリー性がなく、自分で考える授業がない



自分自身の生活と結びつけて考えることができていない

大事なものは言葉自体ではないと思う

テレビやネット記事を見た時に一瞬だけ考えるが、あまり深く考えない

義務教育の道徳や保健の授業でLGBTQ+に関するカリキュラムを取り入れるべき

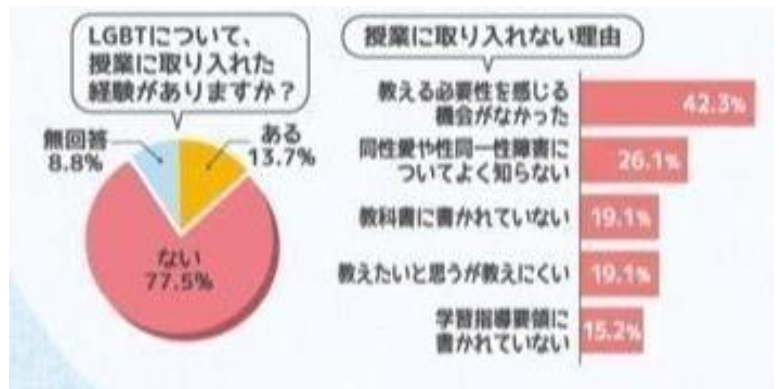
(fraMEが行った中高生223人を対象にしたアンケートでの意見)



「LGBT」が教科書に載る時代に「それぐらい社会も変わってきた」(buzzfeed.com)

現在のLGBT+を取り巻く社会全体の問題の改善には教育の充実が効果的だが、

- ・センシティブな内容であり触れにくい
- ・用語が難しそうというイメージ
- ・教える側の理解が不足している といった理由から教育者が扱った前例もあまりないのが現状である。



日高庸晴[2013]「教員5979人のLGBT意識調査レポート」

[<https://www.health-issue.jp/>] , [最終閲覧日: 2021年3月14日]

・ OUR MISSION



fraMEはSDGs4番と5番のゴールに当てはめた、質の高い教育によってジェンダー平等を実現することを目指しています。特にLGBTQ+に焦点を当てており、なによりも、誰もが生活しやすい社会を作り上げることが目標です。

fraMEという私たちのチーム名は「枠」という意味のframeと、「私」という意味のmeを掛け合わせています。枠の中にとらわれない個性のある自分を生きよう！という願いが込められています。

『PICTURE BOOK』

私たち fraME は前ページで示したようなデータから、「LGBTQ+」に関する言葉などの難しい話ではなくLGBTQ+を中心に「多様性」に焦点を当てた絵本を制作しました。

・ TARGET

固定観念や偏見の少ない幼稚園児～小学校低学年の児童

→この年齢の子供たちは繰り返し絵本を読むことで新たな知識を得て、それらを定着させる時期。

そのため、幼少期の段階からジェンダーを含めた多様性に触れることで、様々な人の個性を大切にできるようになる。

・ IDEAL

幼少期から多様性に触れ、髪の色や目の色が違うように性別にもさまざまなものがあるという考え方をもつことで、中学生や高校生になったときにいじめや仲間外れのないよう行動することができるようになります。

また、社会に出た時に次の世代にこの考え方を伝えていき、現在よりも社会がLGBTQ+の人にとって住みやすいようになっていくと考えられます。



吹き出しで心の声を表現し、
髪色なども変えて、
LGBTQ+だけでなく多様性も
取り入れました。

・ SALES

私たちは2通りの販売方法を考えました。

① 制作した絵本をデータ化し、オンライン書籍化してネットで販売する

→オンラインで販売することでより多くの人のもとに届けることができる。また、オンライン書籍化することで費用を抑えることができるため、一冊あたり500-600円で販売することを検討している。

② 児童館や幼稚園、小学校に絵本を置いてもらい、子供たちの手に取ってもらう

→①の方法で収益を得るため、ここでは収益は得ずに子供たちに寄付をする。

・ PERSISTENCE

持続性の面で、絵本はかなり適していると考えています。

「教育」と考えた時に出張授業やワークショップなども案として出ましたが、これらは私たちの時間がなければ続けることが困難になります。しかし、絵本は大人や周りの人が特別何かを教えなくても子供たちで読み、知識を定着させることができるので持続的にアプローチできると予想しています。

『INTERVIEW』

fraME×創価 Rainbow Actions

私たちは、幼児に多様性を伝える絵本の制作をするにあたり、2月にzoomにて創価 Rainbow Actions の皆様へのインタビューを行いました。これをもとに何を伝えるべきか、どういう考え方を育んでほしいかを構想し、内容を考えました。

Soka
Rainbow
Actions

創価 Rainbow Actions さんの紹介
「LGBT 当事者をはじめ、すべての人がありのままに生きることのできる社会の建設を目指して、LGBT を含むセクシャルマイノリティの居場所づくりと啓蒙活動を行っている創価大学の公式サークルです。」

<https://soka-rainbow-actions.amebaownd.com/>

CONTENT OF OUR INTERVIEW

Q1. 現在の教育現場での LGBTQ+教育についてどう思いますか？

- ① 先生から教えられる機会がなかった。
- ② 当時インターネットしか情報を得られるところがなかった。
- ③ 男女の違いや生物学的なことには触れていないから不十分。



Q2. 幼稚園くらいの子供たちに知ってほしいことは何ですか？

- ① 性のみならず、国籍などの違いはそれぞれあっていいよね！という考え方を持ってほしい。
- ② 小さい子にとっての限定された社会の中で子供たちが違和感を感じないように周りがアプローチすることが大切。

Q3. 子供世代が性の多様性について学ぶとき、どのように子供たちに教えるべきでしょうか？

- ① 精神的にゆとりのある学び方がよいと思う。緊張感の中で教わるのではなく、心が豊かになり、落ち着けるものであってほしい。
- ② 『差別は絶対にいけないものだからしてはいけない』と強制的になるのではなく、自発的に互いを尊重できるようになってほしい。社会的包摂を目指す上で、差別をしてしまった人を許し共に前進する姿勢が大切。